



第74回全国造形教育研究大会
長野大会開催を終えて
全国造形教育連盟委員長
大野 正人

2022（令和4）年度は、高校での開始に伴い全園校種で新学習指導要領に基づいた教育の展開が開始された訳です。しかしながら、ここ数年の全国造形教育研究大会を振り返ってみますと、2019（令和1）年の愛知名古屋大会開催後は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う状況に悩まされ続けてきました。2020年はやむなく中止となり、2021年は、無観客での東京オリンピック開催とともに、オンラインを駆使しての北海道札幌大会を開催し、そして、2022年長野大会開催となりました。今回は、参加型とオンラインとによる参加のハイブリットによるものでした。北は北海道から南は沖縄、また、台湾からオンラインにて参加をいただき、総計280人ほどの皆様方の参加となりました。関係機関、開催地区の尽力により、何とか開催することができましたこと、心から感謝いたしております。

大会挨拶にて話させていただきましたが、これからの社会、生活においては、気づくこと、感じること、感性が、益々、重要となります。そして、imagination 想像することやcreativity 創造することも、これまで以上に重要となります。図画工作、造形美術教育を通して、必要な資質、能力のさらなる育成を図られますこと、今後とも皆様方のご活躍を祈念いたしております。

結びに、ご講演、指導助言いただきました小林恭代教科調査官、平田朝一教科調査官、ご後援くださいました文化庁、長野県、長野市始め、会場提供校、授業者、発表者、並びに参加されました皆様、スタッフ並びに大会運営に尽力されました長野県美術教育研究会村松哲史会長始め、運営に当たられました皆様方にお礼申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

来年度は、開催地区辞退に伴いオンラインによる運営会議ですが、再来年度、滋賀県での開催を心待ちにいたしております。ありがとうございました。



大会を終えて
全国造形教育研究大会長野大会 大会長
高山顕光

大会スローガン「ふれて はじまる」の言葉通り、多くの皆様が“つながって”くださったからこそ実現した大会は、授業や実践発表、協議を通して高揚感に満ちた“感動物語”がありました。

全造連の各都道府県関係者の皆様、参集そしてオンラインで参加くださった皆様、主催及び後援、協賛の皆様には厚く感謝を申し上げます。城山保育園、長野市立城山小学校、長野清泉女学院中学校、長野県美術館の子どもたちと先生方、関係各位に深く御礼を申し上げます。また、授業研究会及び分科会の発表者、司会や記録等の関係者、助言者、講演会パネリストの皆様には、本大会の研究を深めていただきました。文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の小林恭代様と平田朝一様には2日間にわたってご指導をいただきました。本当にありがとうございました。

公開授業や分科会を通して触れることができた子どもたちの姿から、表現するとは感じたり考えたりして学ぶことであり、もてる力を働かせて成長することであるということに改めて学びました。また、造形的な視点をもつと感じられ見えてくる興奮、自分らしく考えを紡いでいくことのできる喜びといった経験が、やがて自他の生活や社会の中の形や色にかかわるよりよい文化をつくる力になるということも学びました。大会テーマの「子どもたちと教師の『IMA』をつなぐ」視点でふり返ると、教師である私たちは、学ぶ同じ人間として、子どもたちと共にある努力をすることが大事だと学びました。これらの学びは、全ての関係者の皆様が、子どもの事実謙虚に向き合い、互いの指導観を尊重し合い、考え合い、今後に向けて進む道を見出す努力してくださったおかげです。

最後になりましたが、関係各位の今後のご発展をお祈りしてお礼のご挨拶とさせていただきます。